# 令和５年度根室管内地域いじめ問題等対策連絡協議会だより

令和５年８月２日（水）　発行：根室管内地域いじめ問題等対策連絡協議会事務局

## 令和５年度　第１回　根室管内地域いじめ問題等対策連絡協議会　会議

根室管内地域いじめ問題等対策連絡協議会

――――――　令和３～５年度のテーマ　――――――

「自己を見つめ、相手を尊重し、
豊かな人生を切り拓く子どもの育成」

**【令和５年度目標】**

**・児童生徒が自己を見つめ生き方について考える**

**・教育相談体制の充実**

令和５年６月30日（金）、根室振興局大会議室にて、「令和５年度第１回根室管内地域いじめ問題等対策連絡協議会」を開催しました。本連絡協議会は、子どもの健全育成にかかわる関係機関の関係者が一堂に会し、いじめや不登校などの生徒指導上の諸問題について現状を把握するとともに、意見交換や協議を通して、学校、家庭、地域、関係機関等の今後の取組に生かすことを目的に開催しているものです。幼・小・中・高・特別支援学校の校長会、根室振興局、教育委員会、関係機関及び団体等の職員等の17名が参加し、重点テーマや関係機関等の取組の現状や今後の連携・協働の在り方について説明・協議を行いました。

### 北翔大学教育文化学部心理カウンセリング学科　飯田　昭人　教授による講演

北海道いじめ問題審議会の会長である北翔大学教育文化学部心理カウンセリング学科　飯田　昭人　教授から「教育相談に活かせる臨床心理学の知見と実践～現場でご尽力されている教師等実務家の皆様へ」と題して、臨床心理学とスクールカウンセラーの両方の視点から、教育相談、カウンセリング、保護者対応などにおける支援の基本的な考え方や方法などについて具体的な事例を含め、次のとおり御講演いただきました。

〇教育相談体制の充実のためには、
- 個々の視点に目を向けるとともに、個を取り巻く社会環境がどうなっているかという視点で考え、「こころの支援（心理学）」と「生活と人の関係の支援（福祉）」を図ること。
- 子どもの問題行動等といわれるもの（「こころの揺らぎ」）は、子どもの成長にとって必要なものであり、大人は「こころの揺らぎ」に対峙すること。
- 説諭や指導に留まらず、子どもや家族の主体性を尊重すること。
- 現在の子どもを取り巻く現状を知り、子どもたちを支えるサポーター（応援団）であろうとすること。
- 「専門性」と「人間性」、「カウンセリング」と「ソーシャルワーク」は車輪の両輪であること。
- 以前は教師がイニシアチブをとって保護者を支えていたが、理想は保護者の本来もっている力を信じ、発揮できるように「教育相談」という方法でアプローチしていくこと。

〇臨床心理学の知見から、
- 相談者の「困りごと」と「要望」を確認し、相談者に寄り添って、スモールステップで取り組めそうなことをねぎらい、同伴者として手伝うこと。
- 問題行動は論理的でないものの捉え方や考え方に基づいてなされるという「認知療法」の視点で相談者に寄り添うこと。
- 「家族療法」の視点で、様々な問題は、家族が影響しあう相互関係で捉えようとすること。

〇気を付けたい視点としては、
- いじめの認知（予防）は大切であるが、重要なのは「深刻化させない」ことであること。
- 不登校については、「教育の機会確保法」を踏まえ、サードプレイスなど社会全体で不登校の子どもを支えていく視点が重要であること。

### グループ協議について

【協議のテーマ】
「各関係機関の取組の充実に向けて、各関係機関の連携の強化を図るための方策について」

- 多様化する子ども・保護者への対応等について、幼小中高と情報共有が重要である。
- 子どもの心を育てる取組を関係機関等が学校と連携して実施し、地域で子どもたちを育てる視点が重要である。
- 子どもが相談しやすい環境づくりの充実が重要である。